



ふくろい

市議会 だより

02
ページ 12月定例会の概要

04
ページ 市政に対する一般質問

11
ページ 市民病院問題

12
ページ 常任委員会レポート



取ったよ!「新春方言かるた大会」

1月5日に浅羽東小学校の体育館で、一昨年末に当時の在校生もかかわって制作された「浅羽の方言かるた」を使ったかるた大会が開催されました。制作にかかわった卒業生も参加する中で行われた大会は、方言特有のぬくもりのある響きと参加者の熱気とが相まって、寒かった体育館も温かく感じられるほどの盛り上がりを見せました。

12月定例会

袋井市民病院問題特別委員会の 委員定数を26人に変更(関連記事P11)

平成19年12月定例会は、12月4日から20日までの17日間の会期で開催されました。今定例会では、市長から提出された平成19年度一般会計・国民健康保険特別会計・公共下水道事業特別会計、水道事業会計の各補正予算をはじめ、市長の給与の減額に関する条例の制定、市議会議員及び市長の選挙における選挙運動用自動車の使用及び選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例の一部改正など19議案、議員提出の袋井市民病院問題特別委員会委員の定数変更など2議案が上程され、採決の結果、いずれも原案どおり可決されました。

また、市政に対する一般質問は、14人の議員が市長の見解をたしました。

条例

《制定》

- 平成20年1月1日から同月31日までの間における市長の給与の減額に関する条例

一連の不適切な事務処理事案に対する処分として、市長の給料を1カ月間10%減額するものです。

《改正》主なもの

- 市議会議員及び市長の選挙における選挙運動用自動車の使用及び選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例の一部改正
公職選挙法の一部改正により、首長選挙におけるビラ作成の公費負担が制度化されたことから、本市でもこれを公営とするため、改正するものです。
- 市職員の育児休業等に関する条例及び市一般職の任期付職員の採用に関する条例の一部改正
地方公務員の育児休業に関する法律の改正に伴う、育児短時間勤務制度導入のため、改正するものです。
- 市議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正
人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に準じ、市議会議員の期末手当の支給月数を0.05月引き上げるため、改正するものです。
- 市特別職の職員で常勤のものの給料等に関する条例の一部改正
国家公務員の給与改定に準じ、市長、副市長、収入役の期末手当の支給月数を0.05月引き上げるため、改正するものです。
- 市教育委員会教育長の給料及び勤務時間等に関する条例の一部改正
国家公務員の給与改定に準じ、教育長の期末手当の支給月数を0.05月引き上げるため、改正するものです。
- 市職員の給与に関する条例の一部改正
国家公務員の給与改定に準じ、給料表の改正、扶養手当及び勤勉手当の引き上げ等を行うため、改正するものです。
- 市職員の退職手当に関する条例の一部改正
雇用保険法の改正に準じ、受給資格要件を改正するものです。



26人体制になって初めて開催された袋井市民病院問題特別委員会(1月15日)

一般会計補正予算

今回の補正予算は、主に次に掲げる事業等のために1億3,200万円を増額するものです。これにより、平成19年度予算総額は276億8,270万円となりました。

◆特別職及び議員の期末手当、一般職の給与・手当・共済費等(約7,972万円)

給与改定等に伴い増額するものです。

◆(仮称)地域交流プラザ委託料及び工事請負費(△7,418万円)

19年6月の建築基準法改正に伴い、審査期間が延び、今年度中に建築工事の発注ができないため減額するものです。

◆児童福祉事業費(1,290万円)

被用者及び非被用者児童手当の受給対象者が増えたことにより増額するものです。

◆保育所管理運営費(6,425万円)

あさば保育園が19年4月1日から認可保育園になったことに伴い、増額するものです。

◆浅羽遊水池整備事業(6,000万円)

県費補助事業に採択されたことから、事業の進捗を図るため増額するものです。

討論

(会派より)

一般会計補正予算に対して

反対する 「日本共産党」

今回計上された掛川市・袋井市新病院建設協議会負担金の800万円は、全体予算1,600万円を折半し負担するものだが、この中には、コンサルタントへの委託料が含まれている。委託業務内容は、協議会に対する助言にとどまらず、新病院の内容、規模、建設時期、場所なども含め、基本構想を策定するというものである。基本構想策定のためのコンサルタント委託料ならば、協議会での協議が進み、方向性が示され、市民の合意が得られた後に出されてしかるべきと考える。

賛成する 「自民クラブ」

新病院建設については、12月4日の市議会全員協議会で当局から事前に説明を受け、協議をし、了解事項になっている。新病院の建設に向けて、有識者を初め市民の代表、両市の市長、市議会代表、病院長等からなる委員で組織する協議会の初会合が12月26日に予定されている。その協議会の運営経費について両市で同額の負担金を計上したもので、適正であると判断する。

芝田 禮二 議員

学校のいじめの状況は

Q 問 新しい定義による本市のいじめ調査の結果、認知した学校数と件数は。

A 答 18年度は、小学校33件、中学校15件の報告があった。現在、徳育を基盤とした学校づくり、命の大切さや思いやりの心を育てるための指導の充実やいじめのサインを見逃さないための取り組みを行っている。

来年度予算の編成方針は

Q 問 平成20年度当初予算の編成の重点は。

A 答 (仮称)地域交流プラザ整備事業などの大型事業、協働のまちづくり、教育環境整備、医療福祉の充実、健康づくりや環境に配慮した諸施策など、日本一健康文化都市の実現に向けて確実に一歩進める編成とする。

高橋 美博 議員

妊婦健康診査の公費負担回数を増やす考えは

Q 問 「最低限5回は必要」との厚生労働省通達をどう受け止めているか。

A 答 県下統一方式の5回に加え、上乗せ実施について、今後、医療機関との調整を図り検討する。

地産地消の取り組みで地域農業の振興を

Q 問 各地の事例に学び、「地産地消」宣言、「条例」制定、「振興ビジョン」策定などの取り組みができないか。

A 答 今後、担い手の育成や優良農地の確保、安心・安全な食糧の供給、地産地消の推進、農業資源の保全管理など、具体的な農業振興策を示す農業振興ビジョンの策定を検討する。

入れ歯リサイクルを提案する

Q 問 不要になった入れ歯リサイクルで世界の恵まれない子供たちを救う考えは。

A 答 入れ歯に含まれる貴金属を取り出し、売却益で世界の恵まれない子供たちを救う活動を行うNPO法人に協力したらどうかとの提言は、事業趣旨が有意義で、実務的な問題も少ないので、入れ歯回収ボックスの設置を前向きに検討する。



日本入れ歯リサイクル協会の「不要入れ歯回収ボックス」

Q 問 学校給食への地場産利用拡大の取り組みはどうか。

A 答 品質や安定的な供給量の確保、価格、調理の効率化など様々な課題があるが、より一層、学校給食における地場産品農作物の消費拡大を図っていきたい。また、学校給食センター運営協議会での議題とし検討したい。



袋井学校給食センター



市政に対する一般質問

よりよいまちづくりを目指して



浅田 二郎 議員

市営住宅の量・質両面からの改善を

Q 問 袋井市の市営住宅は、公営住宅率で県平均の半分以下で量が少ない。老朽化や汲み取りトイレ・風呂の持込など質的にも問題が多い。抜本的な改善が必要では。

A 答 市営住宅率は少ないが、県営住宅、雇用促進住宅を含めると近隣市と比べて著しく不足しているとは言い難い。市内に多くある民間賃貸住宅の活用、生活弱者への対応、既設住宅の質の向上など、様々な角度から研究し、公営住宅のあり方について検討する。

固定資産税の課税は適正に

Q 問 固定資産税の課税は、行政の権限であり、法律では「少なくとも年1回の実地調査」が義務づけられている。用途の変更等があれば、すぐに対応できるはずだが。

A 答 固定資産税は1月1日を基準日として3月末までに価格等を決定しなければならない。短期間で市内の固定資産全てを調査するのは極めて困難なため、家屋調査や土地異動登記等での現地調査と併せて、農地転用や区画整理の仮換地の情報、航空写真の撮影などで常に固定資産の把握に努めている。また、住宅用地に変更があった場合等には申告が必要となっている。ご理解いただきたい。



市営住宅「太田西団地」

広岡 宥樹 議員

後期高齢者医療制度は医療費削減 ほどほど治療の棄民政策

Q 問 特に情報の伝わりにくい超高齢者世帯、独居者、施設入所者等への制度説明や被扶養対象者への対応はどう進めるか。

A 答 広報ふくろいへの掲載をはじめ、チラシやポスターの配布、老人クラブへの説明等、周知に努めてきた。今後も広報ふくろいで特集を組むなど、制度の周知を図っていく。

Q 問 市内対象者総体の負担及び市の負担は実施前と比してどう変わることが見込まれるか。

A 答 高齢者の負担の全体把握は困難である。市の負担は医療費にかかる部分は減少するが、全体では増額となる。また、被用者保険の被扶養者は、経過措置や激変緩和措置が講じられても負担増となる。

愛野公園改良、管理改善を

Q 問 樹木の密生、視界遮断を避け、犯罪防止の面からも風紀の上でも、健全な公園維持に努めることを望むがどうか。

A 答 樹木が大きくなり、下の枝も繁茂し、防犯上からも好ましい状態でないため、本年度、野球場北側の一部について樹木の下枝刈りを実施した。今後も、適切な公園の維持に努めたい。



愛野公園

田中 克周 議員

旧東海道沿い新町地区の 空地・空家対策は

Q 問 同地区の「にぎわい新都心まちづくり計画」の位置づけと進捗状況はどうか。

A 答 旧東海道袋井宿の歴史を活かした町並みの再生や新たな観光資源として集客力を高める取り組みを行う東海道ゾーンと位置づけた。現在、地元市民とのワークショップにより、2016年袋井宿開設400年祭を視野に入れた「どまん中ふくろいまちづくり計画基本構想」の策定を進めている。

Q 問 民間資本がマンション等を建築する前に手を打つべき、と考えるがどうか。

A 答 土地取得にはタイミングの問題もある。策定中の「どまん中ふくろいまちづくり計画基本構想」の方針等に基づき、先行取得について検討する。

「財政健全化法」の重要性を 認識すべきと考えるが

Q 問 公表される指標から、袋井市の財政運営はどのように影響を受けるのか。

A 答 18年度決算では、実質赤字比率はゼロ、連結実質赤字比率はマイナス34.1%、実質公債費比率が16.8%であり、健全であるとする。今後も健全性の維持に努める。



旧東海道沿いの新町地区

鈴木 妙子 議員

妊婦無料検診拡大への取り組みは

Q 問 安心して子供を産み育てる環境を整備するため、妊婦検診の公費負担を現状の2回から拡大してはどうか。

A 答 市民病院でも分娩できない等の事情もあり、妊婦の健康診査については、大変重要なものと考えている。公費負担を県が示す5回に加え、上乗せを実施するための医療機関との調整も必要。そうしたことも来年度の予算に向けて検討していきたい。

公園の管理状況はどうか また情報発信してはどうか

Q 問 公園砂場の管理と衛生対策はどうか。

A 答 専門業者による清掃や薬剤消毒を2年に1度実施しており、適宜砂の補充も行っている。今後も、定期的に清掃や消毒を実施し、清潔な砂場を維持していきたい。

Q 問 公園をより多くの市民が利用でき、市内にどんな公園があるか知ってもらうためにも公園マップを作成してはどうか。

A 答 公園マップの作成やホームページによる情報発信は大変有効なものとする。可能なものから実施をしていきたい。



子供たちの遊び場となる公園の砂場

佐藤 省二 議員

生活習慣病対策に 強力な取り組みが必要

Q 問 該当者の増加が全国的な流れであり市の強い姿勢と市民の自覚が欠かせないと思うがどうか。

A 答 本市が推進するウォーキングなどの継続した運動や良好な食生活は、長期的に極めて効果的であると確信している。各保険者と連携を図りながら、これまで以上に生活習慣病の予防に取り組んでいきたい。

上町中町街づくり推進委員会への 支援は

Q 問 19年1月に技術援助申請をしたが、本格的な取り組みと推進についてはどうか。

A 答 本年度より職員が街づくり推進委員会に参加している。今後は、事業化の可能性について具体的な調査の実施と計画の立案を進めるよう支援していきたい。

耐震補強の推進が急務

Q 問 昭和56年以前に建てられた住宅は補強が必要で、重点的に推進する必要があるのではないか。

A 答 耐震補強工法の最新事例を広報ふくろいやホームページで紹介し、特に高齢者世帯が多い地区では地域相談会を開催したい。



「筋交い」による耐震補強例

寺井 雄二 議員

悪臭は低下したか

Q 問 悪臭を低下させるために畜産調査研究費を設け、環境改善が図られないか。

A 答 畜産振興協議会的なものの設立準備を進めており、臭気対策の研究事業などに取り組んでいきたいと考えている。

健康ジョギングコースを 整備することができないか

Q 問 健康を生み出す川辺を利用した中新田地区の前川堤を舗装し、健康桜道散策道路として生かすことはできないか。

A 答 河川管理者の袋井土木事務所と協議をし、堤防の利用状況等を調査した上で、ウォーキングコースの位置づけとあわせてその実施について判断をしていきたい。

消防広域再編について どのような考えを持つか

Q 問 消防広域化が求められているが、現在の袋井市はどのような意向を持っているか。

A 答 広域化について県が示した二つの案の基本的な考え方を明確にした上で、出動割合が圧倒的に多い救急出動のことも考え、近隣市町の動向も含め、議会と協議をしながら、考え方を整理していきたい。



袋井消防署

大場 正昭 議員

県道の新設を要望する

Q 問 浜北大橋から県道山梨敷地停車場線、県道浜北袋井線へ通ずる道路の新設はどうか。

A 答 この道路は、旧袋井市の都市計画マスタープラン策定の際に、地域から要望があり位置づけをした道路である。磐田市で県道磐田横川線の道路計画を考慮し、浜北大橋や旧豊岡村に通じる道路を検討していると聞いている。磐田市の動向を踏まえ、道路計画を検討していきたい。

三川・西山地区の土地利用は

Q 問 今日までの経過と都市計画マスタープランでの位置づけ、今後の見通しはどうか。

A 答 地域資源活用ゾーンとして位置づけをし、地域資源や地域特性を生かした上で地域活性化を図る区域としていくことになっている。今後は、農業との調整や、環境に対する配慮なども必要となるので、まずは地域が主体となり、土地利用の構想を検討いただくことが肝要であると考えている。



上空から見た三川地域（写真は大谷・見取地区）

高木 清隆 議員

下水道事業における今後の課題への取り組みは

Q 問 汚水処理普及率を高めていくための取り組みをどう考えているのか。

A 答 広報ふくろいでのPRや地元説明会、公共下水道未接続世帯への個別訪問など積極的に取り組んでいる。合併処理浄化槽についても、引き続き地元説明会等でPRし、汚水処理の普及に向け積極的に取り組みたい。

Q 問 下水汚泥をバイオマス・エネルギーに転換し、省エネや地球温暖化防止に貢献する事業への取り組みが必要と考えるがどうか。

A 答 汚泥処理については、民間処理施設での肥料化やセメントの資源へのリサイクルを行ってきた。来年度からは新ごみ処理施設で、余熱発電や余熱利用施設の併設による熱エネルギーの回収と発生したスラグを建設資材として利用を図る予定。

Q 問 施設の維持管理をも含めた、中長期の事業計画策定への取り組みが必要と考えるがどうか。

A 答 今年度、公共下水道全体計画を見直した。今後の事業実施は、市財政見通しに合わせて事業費の配分をし、計画的に取り組みたい。



下水道管の布設工事

竹原 和義 議員

東海地震への備えは

Q 問 袋井市の第3次被害想定 of 死者は「223名」である。何枚のボディ・バッグ(遺体収容袋)が準備されているのか。

A 答 第3次地震被害想定による市の死者数に対応した数量を本年度中にも整備したい。

指定避難場所の水はけ対策は

Q 問 浅羽西多目的運動広場は「指定避難場所」である。暗渠排水工事計画は予定されているのか。

A 答 自然災害等に備えた施設整備も必要なため、現地を調査し、支障のないように対処をしていきたい。

諸井橋周辺の歩道計画は

Q 問 湊川井線(大規模農道)の一番危険な諸井橋周辺の歩道が未整備である。整備計画の見通しはどうか。

A 答 将来、国道150号バイパスや新東名高速道路などの開通に伴い、中東遠の交通の流れに大きな変化が想定されるため、本路線の根本的な見直しの必要がある。



浅羽西多目的運動広場

廣岡 英一 議員

作成中の景観計画で本市の特徴である「農の風景」を磨けるか

Q 問 景観法の理念は、農山漁村や都市に残る美しい景観を育てていくことにある。しかし、制度の軸は都市形成にある。袋井市に当てはめて、どのように運用するのか。

A 答 市街地の都市的景観の創出を行うとともに、昔ながらの豊かな田園風景が残る里山の自然や農業の緑をまちづくりに生かし、市民の郷土への誇りを醸成していきたい。

Q 問 関連する「屋外広告物条例」、「緑の基本計画」は、いつ作成するのか。

A 答 市独自の屋外広告物条例を制定して、はんらんする看板や広告の規制、誘導を行ったりすることで、さらに美しい景観形成が可能になると考える。緑の基本計画は、来年度から策定に取りかかりたい。

3億円寄附された近藤健次さんをどのように顕彰するのか

Q 問 計画中の記念公園とともに、名誉市民賞、または特別功労賞を贈呈すべきではないか。

A 答 名誉市民賞や特別功労賞の顕彰の仕方は、条例上の条件もあるため、議員の皆様方に相談しながら検討したい。



市内に広がる田園風景

村松 尚 議員

国道1号バイパス4車線化実現に向けて

Q 問 4車線化実現のために、国・県への要望はどのように対応したか。

A 答 「島田磐田間バイパス建設促進期成同盟会」を通じた要望活動のほか、さまざまな機会をとらえて国・県に強く要望している。さらに本年度は、新天竜川橋の関連工事が完成することを受け、磐田市とともに両市長、議長、商工会議所会頭で、国土交通省と中部地方整備局、県選出の国会議員に「国道1号磐田・袋井バイパス4車線化整備促進に関する要望活動」を行った。今後も近隣自治体との連携を緊密にし、国・県に強く働きかけていきたい。

久能地区内の3級市道整備の考えは

Q 問 住宅密集地での道幅の狭い市道の整備は、今後どのように行っていくのか。

A 答 久能地区内の生活道路は、地元要望に基づき3級市道の拡幅整備に着手しているが、引き続き地元と土地所有者の承諾が得られていることを条件に、沿道利用等を総合的に判断し順次整備をしていきたい。



国道1号バイパス

戸塚 和 議員

海岸保全の考え方は

Q 問 浅羽海岸は、海岸浸食や農地の荒廃、悪臭と多く問題が取り上げられているが、特に松くい虫による松枯れは見るも無残な状況である。グリーンウェーブキャンペーンで植樹した防風林帯を次世代に継承する取り組みは。

A 答 地元自治会が主体となって、小学生、中学生や市内の協力企業にも参加を呼びかけるなど、市民と行政が一体となって次世代に継承できる組織づくりを進めることが必要であると考えている。

友好都市との交流はどうか

Q 問 市民と行政が一体となり、北杜市・塩尻市と、文化・交流・スポーツの交流を通して積極的に意義のある交流を望んでいるが。

A 答 今後とも各種イベントを通じた交流や市ホームページなどを活用した情報の交流などを進めていく。友好都市との交流を活発にしていくためには、市民の盛り上がりも大切なため、今後も市民ともどもの交流を願っている。



浅羽海岸付近の松枯れの様子

市民病院問題に対する市議会の取り組み状況

市議会では、医師不足等、市民病院が抱える諸問題を解決に導くため、平成18年6月定例会において袋井市民病院問題特別委員会を委員10名体制で設置し、平成19年2月には新病院は掛川市との合同設置が望ましいとする“今後の病院のあり方に関する検討委員会”の提言を支持する内容を含む提言を市に対して行いました。その後、新病院統合に向けての気運が高まり、集中的な審議が必要となったことから、平成19年12月定例会において委員定数を26名に変更し、全議員体制で市民病院問題に対して取り組んでいくことにしました。

なお、12月21日に発足した「掛川市・袋井市新病院建設協議会」へは、市議会を代表し、議長をはじめとする4名の議員が参画することになりました。

以下は、最近開催された袋井市民病院問題特別委員会での主な内容です。



発足後、初めて開催された協議会（12月26日）

袋井市民病院問題特別委員会より

10月19日開催

第1回掛川市・袋井市新病院建設準備会（10月2日開催）では、新病院の建設に向けての具体的な協議を行うため、今後、早急に協議会を設置することが必要であるとの合意が図られ、この経過等について報告がなされた。

また、協議会の名称は「掛川市・袋井市新病院建設協議会」とし、平成20年度末を目途に、新病院像、建設規模、建設場所、建設時期等を協議していくことが提案された。

これに対し、委員から「この協議会は、どのような性格のものか。協議会における協議事項について、市議会の意思確認をどうしていくのか。また、新病院の建設場所についての市長の基本的な考えは」等の質問があった。

これに対し、当局から「合併協議会とは異なり、法定の協議会ではなく両市長の諮問機関的な位置づけとなる。協議会を進める中で、段階ごとに協議事項についての確認を市議会にとっていく必要がある。場所については、袋井市民にとって不都合にならないようにというのが基本線であるが、両方の市民にとって不都合にならないようにということだと認識している。」との考えが示された。

11月30日開催

11月10日から始まった「新病院建設に向けての市民説明会」の開催結果についての報告をはじめ、12月26日に開催される第1回掛川市・袋井市新病院建設協議会における規約、協議会委員の構成案、協議会幹事会の構成委員、協議会での協議方法、今年度予算案等についての説明があった。

これに対し、委員から「協議会設置の目的として、両市民のための病院であることを明確にすることが望まれる。会議の合議の規定は過半数での表決とされているが、問題とならないか。コンサルタントへの業務委託については、費用対効果が得られるよう進めてほしい」等の意見があった。

これに対し、当局から「新病院建設の目的は、両市民に質の高い医療を安定的に提供することであることを明確にしていきたい。表決は、基本的には全会一致が望ましいが、協議会としての意思決定を出していく必要があるため、ご理解いただきたい。コンサルタントへの委託は、新病院建設という専門的な領域における課題を総合的に構築する能力を持っていることから必要不可欠である」との考えが示された。

レポート

平成19年度一般会計・特別会計・企業会計の各補正予算や条例の制定・一部改正などの議案を各常任委員会で審査しました。



浅川井線に設置されている大型標識看板

まだ全てではない。浅羽町の標記が残っているものについて、現在、各担当課で調査をしており、今年度中にシールを貼るなどして直す小型のものがまだある。大型のものも若干残っており、今年度または来年度の予算で直していく。なお、ひらがなであさばが標記され、町がついていないものについては、浅羽地域、浅羽地区という考え方に基づき、修正の計画には入っていない。

国道150号線と市道浅川井線にある大型標識看板「あかるくさわやかに羽ばたく町 浅羽町」を修正することだが、合併により書き直す看板は、これで全て終わるのか。

総務文教委員会

保健師以外の一般職は採用を見合わせた。合併協議会の協定書の中で、幼稚園の教員、保育士等を除いた一般職は、退職者の3割補充ということになっているが、退職者が定員適正化計画の削減予定数を下回る見込みとなっていることから、その他の一般職は採用しなかった。

今年度の一般職の退職者は17人で、来年度の一般職の採用は、保健師3人とのことだが、それ以外は補充しないのか。

総務文教委員会

地方公務員の育児休業に関する法律の改正に伴って、育児短時間勤務制度が導入されるが、育児休業や有給休暇等の現行制度は充分活用されているのか。また、病院の看護師など特殊な勤務形態における育児短時間勤務制度の実効性はどうか。

総務文教委員会

女性の育児休業はほぼ100%取得されており、看護師も期間の長短はあるが同様である。変則勤務の職場で育児短時間勤務制度を利用するには、一層の調整が必要になる。

平成19年4月からあさば保育園が認可保育所となったが、待機児童の人数はどの程度か。待機児童は、人数の問題とともに地域における偏りの問題はないか。

民生福祉委員会

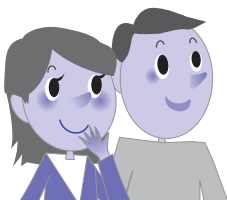
待機児童は、あさば保育園が認可される前の平成18年10月には32名ほどであったが、平成19年4月には42名、同年10月末には56名と増えている状況である。

保育所はこれまで民間主導で動いてきた経過があり、土地確保等の関係で市内中心部に園が少ない状況がある。このため、乳幼児の転入者が多い南地区、市北部の山梨地区や市内中心部に待機児童が存在しており、引き続き地域による偏りは出ると考えられる。

後期高齢者医療制度に係る電算システム委託料600万円の内容は。

民生福祉委員会

後期高齢者医療制度の創設に伴い、これまで国保に加入していた者の一部が後期高齢者医療制度に移行されるが、国保を継続する市民がこれまでと同じように、国保税の軽減措置を受けられるよう、国保税資格管理に関わる電算システムを修正するための委託料である。



常任委員会

月見の里学遊館水玉プールの利用者が減少しているが、新規事業等の考えは。また、更衣室が寒いとの声があるが、最近の光熱費の高騰等に伴うプール運営への影響はどうか。

民生福祉
委員会



月見の里学遊館「水玉プール」

新規事業等については委託契約書や仕様書の中で検討していく。また、更衣室の状況についても改善方法を研究する。水玉プールでは電気を使用しているが、袋井B&GのプールはA重油を使用しており、原材料等の価格高騰による影響を受けているため、今後、運営経費について検討する。

今年度設置予定の合併処理浄化槽の数とそのうち単独浄化槽からのつけかえの数はどのくらいか。

建設経済
委員会

当初に予定していた数は240基で、そのうちつけかえが22基であったが、現在は268基でそのうち17基がつけかえである。
※詳細は下表のとおりです。

	当初(付替)	現在(付替)
5人槽	107 (10)	143 (4)
7人槽	117 (9)	105 (9)
10人槽	16 (3)	20 (4)
合 計	240 (22)	268 (17)

浅羽遊水池は、(仮称)地域交流プラザ建設予定地の東側三角地に設置されることだが、もっと上流部へ設置する方が効果的では、そこに設置する必要性は。

建設経済
委員会

(仮称)地域交流プラザ建設予定地を埋立てするにあたり、周辺への影響をなくすために三角地を遊水池とすることにした。必要性については、地域からの要望でもあり、現地の状況からここが最適だと判断した。

小川町浄化センターが老朽化していると思うが処理能力は問題ないか。建て替えについてはどう考えているか。

建設経済
委員会



小川町浄化センター

処理能力は、日量最大3,150³mで設定されており、平成18年度末の流入量は日量平均1,799³mであり、十分確保している。この区域については、今回下水道の認可区域に含めており、従前の下水道管を修繕し、不排水対策をした中で公共下水道に接続する予定である。接続後に小川町浄化センターの取り壊しを考えている。時期については、予算や修繕の進捗状況などを考慮しながら検討していきたい。

意見書 (要旨)

森林・林業・木材関連産業政策と国有林野事業の健全化を求める意見書

日本の森林・林業・木材関連産業は、木材価格が長期低迷する中で、林業の採算性は悪化し、森林所有者の経営意欲も極度に低下するなど、適切な森林の育成・整備が停滞する現状にある。

政府・林野庁は森林を適切に整備・保全する「美しい森林づくり」を推進するとして、関係省庁の連携強化、官・民一体の運動に取り組むとともに、2007年から6年間で330万haの間伐を実施するとしているが、森林整備に係わる予算措置が不透明であることや地方自治体の財政難、森林所有者の負担などから、実行体制の不備が危惧されている。

よって、国においては、森林・林業・木材関連産業政策の推進と国有林野事業の健全化に向け、下記事項について、必要な対策を講ずるよう強く要望します。

- 1) 森林・林業基本計画に基づく森林の整備・保全、地域材利用対策の推進と、木材の生産・加工・流通体制の整備、林業労働力の確保に向けた諸施策を確立すること。
 - 2) 地球規模での環境保全への対策を推進し、地球温暖化防止における森林吸収源対策の財源を確保すること。また、小規模森林の整備を促進するとともに森林所有者及び地方自治体の負担軽減を図るため、国庫補助率等の改善を図ること。
 - 3) 国有林野については、安全・安心な国土基盤の形成と、地域振興に資する管理体制の確保を図り、国民の共有財産である国有林の持続可能な森林管理と、技術者の育成確保を国が責任を持って図ること。
- 衆・参議院議長、農林水産大臣、林野庁長官他あてに提出しました。

3月市議会定例会は次のとおり行う予定です

- 【場 所】 市役所5階議場または各委員会室
- 【時 間】 午前9時から(最終日については、午後1時30分からは予定しています。)
- 【日 程】 2月 26日(火) 開会、議案の説明
3月 3日(月) 市政に対する一般質問
4日(火) 市政に対する一般質問
5日(水) 市政に対する一般質問
6日(木) 議案の審査(常任委員会)
7日(金) 議案の審査(常任委員会)
10日(月) 議案の審査(常任委員会)
21日(金) 委員長報告～採決、閉会

あなたも議会を傍聴してみませんか

当日、受付をしますので、市役所5階の議会議務局までお越しください。

議場のバリアフリー化を目指し、段差解消機及び車イス優先の傍聴スペースを設置しています。また、耳の聞こえにくい方には、赤外線補聴システムを利用した補聴器を用意しています。

※足の不自由な方、妊婦の方なども段差解消機を利用し傍聴席へ入れます。
※段差解消機、赤外線補聴システムをご利用の際には、議会議務局へ声をおかけください。



市ホームページへアクセス!

<http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/>

市議会のライブ中継を行っています



インターネット中継ページ

より開かれた市議会を目指し、定例会、臨時会の本会議ライブ中継を行っており、市議会ホームページでご覧いただけます。なお、市ホームページからインターネット中継ページへの移動方法は右のとおりです。



クリック!



クリック!

クリック!

会議録が検索できます



会議録検索ページ

本会議の会議録が、キーワードなどを入力することにより、見たい箇所が簡単に検索できます。なお、市ホームページから会議録検索ページへの移動方法は左のとおりです。